

おわりに

本研究の実践では、多面的・多角的に歴史的事象を考察する力の育成を目指し、一定の成果をあげることができたと考える。また、当初に期待した、歴史への興味・関心の高まりが見られるとともに、主体的な学習態度も育成されてきた。各校においては、授業改善のために、本研究での実践を生徒の実態に合わせて活用していただければ幸いである。また、以下に示すような指導上の工夫をお願いしたい。

1 多面的・多角的に歴史的事象を考察させ理解を深める工夫

歴史的事象について、その要因を様々な側面から追究して仮説を立てさせたり、立場の異なる複数の史料を比較しながら追究させたりするといった、多面的・多角的に考察させる学習活動を取り入れた。こうした学習活動を通して、教科書の記述や教師の説明をそのまま覚えるのではなく、より深く、様々な立場から考察する力や態度をある程度育成することができた。生徒は、知識としては獲得している事項について理解を深め、歴史的な見方や考え方を身に付けてきたといえる。

このようなことから、人名や事項名等を網羅的・羅列的に教え込むのではなく、学習内容を重点化し、主題を設定して追究させることが、歴史的事象の理解を深めるには有効であるといえる。

なお、平成18年1月に実施された大学入試センター試験においても、現行学習指導要領を反映した設問が見られたことから、文字資料だけでなく、図版や表・グラフなどを効果的に取り扱う工夫も必要であろう。

2 継続的・反復的な指導と教科書レベルの知識で追究できる教材の開発

課題追究を行う際には、まず教師が実際にやってみせるなどして追究の仕方を生徒に教え、その上で生徒に実際に取り組ませることが効果的である。生徒は、繰り返し取り組むことで、追究の仕方を身に付け、歴史的な見方や考え方を深化させていくので、継続的・反復的な指導を年間計画の中に位置付けることが重要である。

なお、実際の歴史的事象には、教科書には記されていないさまざまな要因が関係していることが多い。高校の授業では、学問として専門的に研究しているわけではないので、教科書レベルの知識を前提として、史実に基づいて追究活動ができる教材を開発する必要がある。

3 主体的な学習態度の育成

生徒にも取り掛かりやすい歴史資料をもとに、読み解きを行い、歴史的事象について考察する活動を通して、生徒は、歴史資料への親しみが増したり、それを記述した人物に共感したりしていた。また、資料を見つけたり、意見（仮説）を発表・批評しあったりする活動を通し、人名や事項名等を単に暗記するだけではなく、歴史的事象を主体的に考察し判断する態度が育成されてきた。さらに、歴史への興味・関心も高まり、歴史的事象について考察すること自体の面白さを感じるようになった生徒も多かった。

生徒の関心・意欲を喚起しながら、学習活動の成果を効果的に次の学習活動に生かしていくことが、基礎・基本の定着や主体的な学習態度の育成につながるといえる。

4 現代社会の課題を考える力の育成

歴史の指導においては、現代社会における種々の課題について歴史的な見方や考え方をを用いて考察でき、さらにその課題を解決するのに必要な能力・知識・態度を獲得できるような生徒を育てることを目指すべきであろう。日本史の学習が、日本の文化と伝統の特徴についての認識を深めたり、現代日本の形成の歴史的過程を十分に理解し認識を深めたりする学習となり、国際社会の一員として必要な自覚と、国際社会に主体的に対応して生きることのできる資質を養う学習となるよう、工夫を続けていくことが大切である。

高等学校における教科指導の充実
地 理 歴 史 科

発 行 平成18年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303